

当院の新年会(1/23)にご都合でご出席頂けなかった木村医院(小浜市四谷)の院長木村浩三先生が話の内容を紙でお届け下さいましたので要約して記載させていただきます。

フランスに学べ

シラク3原則

木村医院 木村 浩三

シラク3原則というのがあります。1970年頃、フランスが少子化で国の将来が危惧されたとき、「国の少子化は文化を滅ぼす」という観点から時の仏大統領シラクが国策として次のような3原則を立てました。

一つ、子供を持った人に新たな経済的負担を生じさせないこと。これは女性が好きな時に赤ちゃんを産む権利を保障することにもなります。即ち、女性が産みたいときに出産、育児、に必要な経済的負担を国が負うこと。

二つ、無料の保育所を完備すること。待機児童0ということです。保育園のコストは0歳児の場合は高いが1歳以降から低くなる。だから出産から最初の1年は給与を100%保証し、お母さんに見てもらおう。すると殆どの人は育児休暇をとります。2年目からは給与保証は少し下げ、働き始めてもらい、保育所を利用してもらう。すると保育所運営のコストも抑えられます。

三つめは、育児休暇から復帰したときはずっと勤務していたものとみなし、企業は受け入れる。

というものです。少子化は日本も抱える数多くの課題のうち最優先に考えなければならないテーマと断言していいでしょう。マクロで考えれば人を増やすことこそ最大のテーマなのです。日本でもシラク3原則が実行されれば、中山クリニックの安泰のみならず、日本国の安泰に繋がることを申し添えたいと思います。

《当紙編集者付記》： 1) フランスでは1970年ころから出生率が1.66にまで落ち込んでいたのが、上の3原則のお陰で10年余りで2.0にまで回復しました。 2) フランスを知る人は、フランスでは60%以上が婚外子というから、そんな中で子供が多く生まれたのじゃないの、とかおっしゃるかも知れませんが実際は婚姻届けの前に子供が出来、あとから登記するケースが多いからなのです。日本流に言うとならぬ「出来ちゃった婚」です。 3) 我が国の「アベノミクス」は経済や国防ばかり優先の国策ですが、「幽霊の正体見たり、枯れ尾花」であったりしないか、「一将功成りて万骨枯る」にならないか、と危惧されます。論語に出てきますが、

孔子が政治の要諦を尋ねられた時、「食・兵・信、を整えること」と答えました。が、弟子が止むを得ずその内から一つを除くとすれば？ と尋ねると、孔子は即座に「兵」と答え、弟子が次いで除くとすれば？ と尋ねると、「食」と答えました。そして“いにしえよりみな死あり、民、信なくんば立たず”と答えました。そんな逸話があります。

木村先生のシラク3原則の提示は“日本人と日本の文化を守る”には少子化を克服することこそ、いま最も優先して考えるべき国策なのではないか、とおっしゃっているものと理解しました。

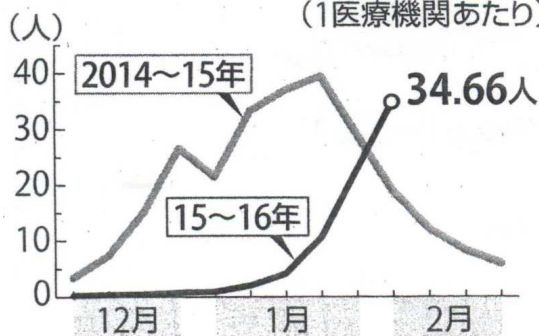
がん対策世論調査

内閣府が発表した「がん対策に関する世論調査」によりますと、日本のがん検診の受診率は年々やよくなっているものの40%ほどで、欧米諸国に比べるとかなり低いものです。その理由を尋ねると、①「受ける時間がない」が48%、むしろ、この率は増える傾向にあります。以下、②「費用がかかり経済的に負担になる」(38.9%)、③「がんであると分かるのが怖い」(37.7%)、④「健康状態に自身があり、必要性を感じないから」(33.1%)などが上位4位です

年齢別に見ると若い世代では①が多く、20歳代は60%に及び30代では66%にもなります。また、③も60代では43.7%と理由の第一に上げています。そのほか、「受ける場所が不便だから」というのも全体の20%くらいあります。

このアンケートは国が国民のがん対策に対する意識調査として今後の施策の参考にしようとするものです。あなたにこんなアンケートが来たら、どうかご協力ください。

インフルエンザの患者報告数 (1医療機関あたり)



インフル警戒

厚生労働省は今日15日、インフルエンザの患者数が1医療機関当たり34,66人になり、警戒レベルの30人を超えたと発表しました。左上のグラフの通りです。ご注意ください。

...

《あとがき》 1) 当院でもインフル患者さんは増えております。去年よりは少ないようですが、ご用心、ご用心！ 2) 当院、ミニギャラリーは今日より増山昭次さん(小浜市遠敷)の写真です。今回は冬景色4点です。今後各季の風景を展示して行きます。ご期待下さい。